

薬剤の処方意図を確認して不要な薬剤の中止に繋がった例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬剤の処方意図と服用継続の必要性について医師に確認し、不要と考えられる薬剤の継続投与を回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶化学療法（レジメン変更）目的で入院された患者

【レジメン】

変更前：DqLd 療法（ダラキューロ+レブラミド+レナデックス）

変更後：Kd 療法（カiproロリス+デキサート）

※虚血性心疾患や脳梗塞等の既往歴なし

レブラミド開始時より、バイアスピリンも開始となっており、服用を継続されていた。



E さん

E さんの昔のカルテを確認すると、バイアスピリンはレブラミドと同時に開始されているようだ。特に虚血性心疾患や脳梗塞等の既往もなさそうで、レブラミドの血栓塞栓症予防目的*で服用されていた。

E さんのバイアスピリンについて相談があります。バイアスピリンは、レブラミドによる血栓塞栓症予防目的での服用でお間違えなかったでしょうか。その場合、レジメン変更のためレブラミドが中止となりますが、バイアスピリンは継続されますでしょうか。

情報提供をありがとうございます。バイアスピリンは、レブラミドによる血栓塞栓症予防目的ですので、レブラミド中止 1 週間後に、バイアスピリンも中止しましょう。そのように指示を出しておきます。

ありがとうございます。E さんに、バイアスピリンの中止について説明いたします。



医師



薬剤師



薬剤師

その後、バイアスピリンは予定通り中止となり、血栓塞栓症の発現なく経過した。レジメン変更に伴い、薬剤の処方意図と服用継続の必要性について医師に確認することで、不要と考えられる薬剤の継続投与を回避し、薬物療法の適正化に貢献できた。